

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年9月14日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.47】

存在したJR総連と革マル中央との話し合い！その真相は？

本間雄治氏は、JR内革マル派と革マル派党中央との話し合いに、前者の代表としてJR総連小田前委員長や東労組石川前委員長が出席していたと裁判で証言した。名指しされた石川氏は、同じ裁判で、本間氏に先立ち2009年2月17日に以下の通り証言した。

(被告代理人)革マル派の中央とJR内の革マル派のメンバー、あるいは革マル派のシンパが対立をしたということについて、何かご存じですか。(石川)JR内革マルかどうか知りませんが、そのように革マル派が当時国鉄から出ていった人を拉致監禁したという事実は知ってますし、革マルに対して怒りを覚えてます。それは知ってます。(代理人)そういったこともあって、JR内の労働者が革マル派と中央を代理する弁護士と交渉したということはありませんでしたか。(石川)弁護士とですか。(代理人)弁護士と中央を代理してね。(石川)それはいいですね。(代理人)あなたは、そこにJRの労働者の代表の一員として参加したことはありませんか。(石川)弁護士。(代理人)弁護士と革マル派の党中央というのが一方にあります。そして、JRの中の革マル派のシンパかメンバーか、そういった人たちがいます。この二つのグループが対立をしたというときに、革マル派と中央は弁護士を代理とした、JR内の革マル派のメンバー、あるいはシンパは何人もの人が交渉団として出ていった、その交渉団の1人としてあなたがいたのではありませんか。(石川)それはJR革マルとか言われるのはそれではなくて、先ほど言ったように私の先輩、この方は亡くなりましたけど、その人が拉致監禁、パくられましたので、それを救出しようではないかという先輩の呼び掛けで、革マルですか、その人たちに返せという要求をしに行ったことがあります。...(中略)...(代理人)どこに行ったんですか。(石川)どこにと言われても...土地勘というのは、僕はないですから。...(中略)...(代理人)神田のホテルでしょう。神田とか御茶ノ水のホテルではなかったですか。(石川)御茶ノ水の方が近いかなという気がしますね。(代理人)そうですね。(石川)はい。場所はよく覚えていないですね。(代理人)だんだん思い出してきましたね。革マルの方はどういう人がいましたか。名前は結構ですけども。(石川)知りません。(代理人)では、革マルだということは分かりましたか。(石川)ええ。(代理人)どうして分かったの。(石川)反対側にいましたから。(代理人)だけど、反対側に座っている人がどういう立場の人かというのは、どうして分かるのですか。(石川)偉そうにしましたからね。...(中略)...(代理人)あなたたちは何人ぐらいで行ったの。(石川)10人ぐらいですかね。(代理人)外にも防衛する仲間たちがたくさん来てたでしょう。(石川)いたかも知れませんがね。(代理人)そういう人たちに守られる中で、あなたたちは革マルと思われる人たちと交渉したと、こういうことですね。(石川)そうです。

「リスト裁判」でさらに真相究明が進む可能性は大きい！

石川氏は、自らがJR革マル派の代表であったとは認めていないが、革マル派との話し合いの存在と、そこにJR総連側の代表者として出席したことを証言で認めた。本間氏はJR総連側の代表者として小田・石川氏の名前を挙げたが、石川氏は10人ぐらいいたと述べている。また、本間証言によると防衛隊は相当多数いたということだ。果たして、誰がいたのだろう。多数が参加したこの話し合いについては、「JR革マル派 43 名リスト」等の裁判を通じさらに解明が進む可能性が高い。今後の展開が大いに期待されるところだ！